

一般的な事故要因と業種を超えて共通する対策例(汎用版) SHELL 分析手法

考えるヒント	具体例	
運営・ソフトの問題 (S)	要因例	マニュアル、規定などシステムの運用に関わるもの
	対策例	例：説明書の掲示、新人・新任教育、管理職教育、職場慣習の見直し マニュアル見直し(作業手順、権限・役割の見直し)
機械・ハードの問題 (H)	要因例	機械・機器、設備、施設のつくり・配置
	対策例	例：原因となりうる機器の定期点検、老朽化機器・部品の交換、 新機種を導入、機器の配置換え、補助装置・補助器具の導入、 作業着・作業靴の改善
環境の問題 (E)	要因例	仕事の環境 / 物理的環境、それ以外の環境
	対策例	例：改修による環境改善、照明・騒音・空調の改善、業務範囲・労働条件・勤務時間・受け持ち件数の見直し、業務分担、組織風土の見直し、 環境(周辺住民など)との融合・交流
人の問題 / 本人 (L)	要因例	事故に関わった本人の身体的・心理的ストレス、技術・知識不足
	対策例	例：心身状態の把握と改善指導・支援(検査に行く、カウンセリングを受ける、 休む、合意に基づく配置換えなど)、経験・知識・技術的問題の解消(研修の機会を提供するなど)
人の問題 / 他者 (L)	要因例	当事者以外の人々・マニュアル作成者・指示者、(相手)の身体的・心理的 ストレス、技術・知識不足
	対策例	例：心身状態の把握と改善指導・支援(検査に行く、カウンセリングを受ける、 休む、合意に基づく配置換えなど)、経験・知識・技術的問題の解消(研修の機会を提供するなど)

対策の方向性(一般的に共通する方向性)

- ・ 排除規定「 はしない」
- ・ 標準化(統一ルール)
- ・ 単純化(携帯化)
- ・ 可視化(目に見えるようにする)
- ・ 意識付け(研修・教育)